「我が署における森林教室の取組みについて（より森林に親しんでもらうために）」

留萌南部森林管理署
畠中　寿明
渡邊　博司
渕上　優也

１．はじめに

留萌南部森林管理署では、地域の方々へより森林への関心を深めてもらうため様々な森林環境教育の推進に取組んでいます。

具体的には森林での様々な体験活動が出来る空間として各地区に「ふれあいの森」「遊々の森」等のフィールドを設定して、小学生・社会人の方など様々な年代の方に応じた森林教室を開催しています。

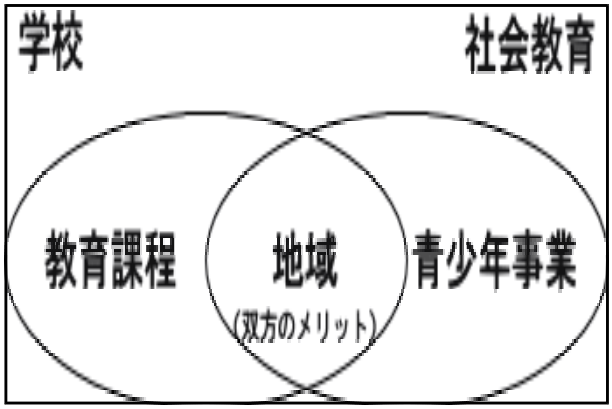
本課題では「学社融合事業」として長年、苫前町教育委員会との間で行われている取組みを中心に当署が実施している森林教室の事例を紹介し、特に将来を担う小学生が興味を持って参加していただける取組みについて考察していきます。

２．取組みの経緯・結果（苫前町）

留萌南部森林管理署の国有林は北海道の西北、留萌振興局管内のうち苫前町、小平町、留萌市、増毛町の1市3町に所在しています。

当署管内最北部に位置する苫前町では、平成8年度から「学社融合事業」を推進しています。「学社融合事業」とは、平成8年4月に生涯学習審議会より「地域における生涯学習機会の充実方策」と題した答申で示された、多様化・高度化する学習ニーズの対応策の一環です。

学校教育と社会教育は、学習の場や活動など両者の要素を部分的に重ね合わせながら、地域一体となって教育に取組んでいこうという事業です。



苫前町では農林水産業・社会奉仕体験などを実施しており、この一環の中で、森林教室の依頼を受け、小学校の子供達が森林に親しみを持ち森林の機能や暮らしの中での位置づけを学んでもらえるような授業を行っています。

平成21年度に5回、平成22年度は、学習指導要領の改訂もあり2回の森林教室を行いました。

町内の国有林に設定されている「サンケベツ・サッタルベ遊々の森」は、平成19年に留萌南部森林管理署と苫前町教育委員会の間で協定が締結されました。

「サンケベツ・サッタルベ遊々の森」は留萌管内で最初に締結された「遊々の森」であり、現在は森林教室の空間として有効に活用されています。

「サンケベツ遊々の森」は、主に苫前小学校の児童の森林教室のフィールドとして使用されています。

平成21年6月には苫前小学校4年生を対象に、昨年の秋に採取した「やまぶどうのツル」を切り分け、林内で挿し木をしてもらいました。その後、昨年挿し木した「やまぶどうのツル」から芽が出ている様子を観察し、森林の植物の持つ生命力の強さを実感してもらいました。

平成22年10月には同じく苫前小学校の1・2年生を対象に、森の不思議散策、木の実や落葉を使った「万華鏡作り」を行いました。

まず森の中にある不思議な形のものに興味を持ってもらい、キハダの皮を舐めて味のある木があることを体験し、森林の土は軟らかくドングリや落葉など様々な形や色が混ざって作られていることを体験してもらいました。

落葉や木の実を集めたら万華鏡作りを行いました。低学年なので職員が少人数のグループに分かれて指導を行いましたが、基本は自分の力で作ってもらいました。完成して自分達が集めた木の実や葉っぱを入れて眺めてみると、色々幻想的な形を見せる山の宝石に子供達は自分で作った喜びも含めて大きな歓声を上げていました。

一方、「サッタルベ遊々の森」は主に古丹別小学校の森林教室の空間として活用しています。

「サッタルベ遊々の森」で実施する森林教室は、約1キロに渡る作業道を歩きながら散策していくので、発見を重視した内容になっています。

平成21年は古丹別小学校の3年生を対象に6月と9月に「樹木当てクイズ」を実施しました。6月ではトドマツ、ホオノキのような特徴のある樹木の葉を何点か説明し、森の中で同じ木がないか？を探してもらいました。

9月に同じ児童と森の中に入り、6月に勉強した木を覚えているか、6月と9月では何か違うところがあるかなどを観察してもらいました。

最後に名前を覚えた合格証の代わりにそれぞれの木に樹名板をつけてもらいました。

平成22年は同じく3年生に、「フィールドビンゴ」を使った森林散策を実施しました。「フィールドビンゴ」とは、森の中で発見できる様々な木や生き物の設問がビンゴ状に書かれており、それらの内容を発見しながら設問を埋めていくという遊びです

子供達は書かれている内容に興味を持ち、森の中に答えがないか熱心に観察していきます。例えば「トゲのある木」では、左の写真のようにタラノキを見つけると恐る恐るですが自分で触ってみて「トゲがある」ことを実感していきました。

慣れてくると我々にもどんどん質問をしてくるようになり、触ったり・匂いを嗅いでみたりするようになりました。ゲーム感覚の中にも森林の中には多様な空間があることを体験してもらうことが出来ました。

また、平成21年には古丹別小学校の1年生にも「万華鏡作り」を体験してもらいました。当日はあいにくの雨でしたので、森林事務所々員が事前に集めた葉っぱや木の実を観察した後に万華鏡を作ってもらい、形の変わる葉や木の実を楽しんでもらいました。

そしてこれらの葉は「小学校の中にもあるかもしれない」と投げかけをしてみて、子供達は学校の中の同じような葉や実を興味を持って集めることが出来ました。

今まで紹介してきた森林教室ですが、事前の小学校・教育委員会との打ち合わせで児童に森林の何を知ってほしいのか、また小学校は何を教えてほしいのかの確認が重要です。これらの打ち合わせの中で児童の体力や学習の習熟度を把握して、子供達に一番効果的に伝えられる授業内容を模索し、先生方と意識を共有することによりその後の授業を含めた学習に役立てて頂くことが出来ます。

３．取組みの経緯・結果（留萌市・小平町）

苫前町以外でも、参加する方にあわせた内容の森林教室を実施してきました。

留萌市では平成22年10月に毎年恒例の新星マリン漁業協同組合女性部・コープサッポロ留萌委員会合同により、「チバベリふれあいの森」において森林教室を開催しました。

当日の参加者は平日と言うこともあり11名と少なかったのですが、カミネッコンを使ったミズナラの植樹を行い、木を育てることを体験していただきました。

参加者はカミネッコンにミズナラを植えながら和気あいあいとみんなで植樹を行い、小さな苗木のひとつひとつが森林を作り、自分たちの町や海を育んでくれることを全員で分かち合いました。

小平町でも小平町子供育成会の子供達に森林教室を実施してもらいたいとの小平町教育委員会からの要請を受け、平成22年7月に小平小学校1～3年生に森林教室を開催しました。

当初は小平町達布地区の国有林で開催予定でしたが、あいにくの雨のため「小平町文化交流センター」での屋内開催となりました。

参加した小学生にイラストを使った樹木の説明を行い、固まれば木質状になる粘土を使った小物作りを行いました。

話を聞いたり写真を見るだけでなく、粘土で物を作りながら木の質感を味わってもらうことで、楽しい森林教室となりました。

４．考察・今後の課題

それぞれの森林教室で参加者は笑顔のなかで体験してもらいましたが、苫前小学校・古丹別小学校の参加者に感想文を書いてもらい特に印象に残ったものは何かを検証しました。

その結果、苫前小学校・古丹別小学校ともに、

○ドングリやトカゲのように実際に自分たちの手で触れてみたもの、
○キハダの皮を舐めて苦いと感じたこと、
○オオウバユリの種のように自分の息を吹きかけたら雪のように舞うもの、

などのように、自分の目線・感覚に直接訴えかけたものが特に印象に残る傾向が伺えま

した。
　考察として森林教室に参加した小学生には、人間の五感の中で視覚に訴える物よりも、触れたり・味見をしたような自分たちの目線で体験した内容が強く印象に残る傾向が見られました。
　小学生を中心とした参加者には、森林の不思議を自分で発見・体験したと実感してもらうことが、森林教室成功の鍵といえます。

　これからの課題としては、平成22年度学習指導要領が改訂され、総合学習の時間が減少していく中、森林教室を開催できる時間は相対的に短くなり、森林に入る機会は減少していく傾向になると思われます。
　今後は、これまで以上に子供達の興味を効果的に引き寄せ、家族の方々を始め、学校関係者の方々にも「参加させて良かった」と思える森林教室を提供していくかが課題となると考えます。